ICTの力で、女性の活躍の場をもっと広げていきたい

ヤンマーアグリジャパン（株）
北海道支社

ヤンマーアグリガールズ
プロジェクト

種まきから収穫までに学べること、伝えたいこと

農業の中でも、果樹は一朝一夕に収穫できるものではない。さくらんぼは、植樹をしてから成木になるまで5～10年かかる。ぶどうでも植えてから1～2年は収穫を見送って、成木させる必要があるそうだ。

「失敗することも少なくありません。前年は大丈夫だったのに、大雪が屋根に積もり、小屋が潰れそうになったし、師匠からも、自然からも、まだまだ学ぶことは多いです。でも、何か新しいことが学べるって素晴らしいこと。苦労はあっても、最終的に新しい学びや挑戦する楽しさが勝ちますね」と満面の笑みを浮かべる。

そんな高橋さんが、農業を通して伝えていきたいこと。それが「自然育」という考え方だ。

「種をまいて、収穫をする。この間にはいろんな農作業があります。自然の中でのびのびと過ごし、いろんな農作業を通して、食だけでなく命や遊びなどさまざまなことを伝えていけたらなと思います」

トマップファームでは収穫体験だけでなく畑づくりから出荷まで、すべての農作業体験の受け入れを行なっている。さらに今、力を入れているのが、「子ども達に届け隊」という活動だ。「傷や割れがあるために出荷できない規格外の果物を幼稚園や保育園にプレゼントしています。傷や割れがあっても、おいしく食べることができることを伝えたくて始めました。『おいしいね』と言ってくれた時は涙が出るほどうれしかったです」

仕事に子育てに完璧のように見えるが、「今は特に授乳で眠れないし、毎日バタバタですよ（笑）」と笑い飛ばす。「でも、私は自然の中にいるとリフレッシュできる。やっぱり自然が好きなんですね。農業分野は高齢化が進んでいますから、若い世代に積極的に農業に入ってきてほしい。果樹栽培を通じて思ったのは、選果では繊細さが重要だということ。女性もどんどん入ってきてほしいです」

目下の目標は、栽培している醸造用ぶどうから自社ワインをつくることだ。100年続いた農園を受け継ぎ、全くの初心者で飛び込んだ農場経営は、今年で5年目を迎える。農作物とともに、子どもたちの「こころ」を育てる農業は、100年先の未来へとつながっていくことだろう。

労働力不足の解消に女性の力を生かす

農業経営において女性目線が重要視されるようになってきた。しかし依然として、重労働は男性、軽作業や加工などは女性といった役割分担意識は根強くある。

そんな中、女性が農業現場で活躍するための活動が、農業機械の操作研修会「アグリトレーニング」だ。8人の女性社員で結成された「ヤンマーアグリガールズプロジェクト」のメンバーが、各々の専門であるドローンやトラクターなど実機を使用した操作研修を行う。チームリーダーの工藤千佳（ちか）さんは話す。

「弊社では女性活躍のさまざまな取り組みの中で、私自身も折に触れて農業現場を体感していました。そこで感じたのは、機械などに興味を示す女性が多数いることでした。男性に混じって参加した女性は質問も遠慮がち。それでも中には『農機を畑まで運べたらいい』『トラクターと作業機の脱着ができるようになれば便利』という声も聞かれ、『できるようになれば、格段に作業効率は上がるのに…』という思いが伝わってきました」

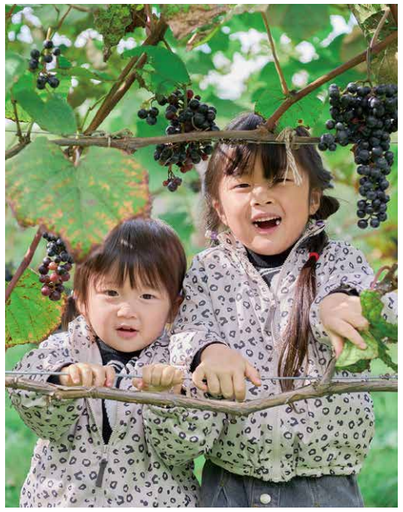
この背景には、農業現場での慢性的な労働力不足がある。女性たちも深刻さを肌で感じていた。

「スマート農業※の普及によって女性が活躍できる現場は着実に増えています。そこで、現場での困りごとを解消するため、2020年夏、女性による女性のための研修会をスタートさせました」

研修は、トラクターの基本操作のほか、自動操舵トラクター、田植機、ドローンなど希望に沿って実施。参加者からは積極的に質問がくるという。「出張研修もしますが、自社圃場で研修を開催することも。作物ごとに使用する機械が違うのでオールラウンドに対応できるのが強みですね。また、参加者も社員も女性なので、質問しやすい雰囲気づくりを心がけています」。研修後には座談会を開催。女性同士のつながりもでき、徐々に成果を見せている。

女性農業者支援プロジェクトとして始まった研修会。自社圃場では、もう今年の研修に向けた春作業の土起こしが始まっていた。

※スマート農業：ロボット技術やICT（情報通信技術）などの先端技術を活用し、超省力化や高品質生産などを可能にする新たな農業。



高橋さんが師匠と慕う落井さん。二人の子どもにとって落井さんは遊び相手もしてくれる優しいおじいちゃん。

学校給食に有機農畜産物を提供する取り組みは全国の自治体で広がりつつあります。環境や安全に配慮した学校給食を子ども達に提供できる場が広がるよう、道も有機農業の推進に力を入れてまいります。

編集者より　confa mail　読者より

旭川市 50代

今号も彩り良く、キレイな紙面で読み応え抜群！どの農家の方たちもポリシーを持って頑張っておられるのがよく判りました。有機の野菜での給食を食べられる子ども達は幸せですネ。